

## まとめと今後の展望

## 最終章

2016年度の地域支援プロジェクトの報告書をお届け致します。本年度もプロジェクトとして実践活動を継続し、報告を行う事ができますことも、大学内外の多くの方々からのご支援があったことです。ご協力頂きました、伊佐市・霧島市・鹿児島市など様々な地域の方々や、研修会にご参加頂きました多くの方々に、心から感謝いたします。

本年度はこれまでの活動を継続すると共に、国際交流にも昨年度から引き続き重点を置いて活動しました。アメリカから稲田先生、マレーシアからガン先生、フランスから福先生をお招きし、先端的な技法を学ぶと共に、国際的な視野での地域支援のあり方について検討する機会となりました。これらの活動を通して、研究科教員のもつリソースとしての国際的なネットワークを、地域支援の中に活かすことができたのではと振り返っております。参加者からの満足度も高く、今後も国内外からの講師招聘の努力を重ねてゆきたいと考えております。

臨床心理学的地域援助に関する教育としては、心理検査のコンテンツ化や大学院授業の連携が安定的に運用され、本プロジェクトの独自性のある成果となっています。2015年9月に成立し公布された公認心理師法により、我が国でも心理職の国家資格化が行われることになっています。公認心理師の業務としても、「心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助」、「心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供」が明記されており、地域支援活動としての業務を担うことが重視されています。我々がプロジェクトの中で培ってきた教育内容は、臨床心理士のみならず公認心理師養成においても、地域援助に関する教育のひとつのモデルとして採用されうる発展性の持つものではないかと考えるところです。

現在、国立大学に対しては、グローバル化や人材養成機能の見直し、地域貢献の強化など、様々な課題が突きつけられています。本プロジェクトの活動を考えますと、上記の国際的な地域実践に関する国際交流の継続によるグローバル化への貢献、大学院生はもとより地域で活躍する既卒生や学び直しを求める社会人への研修機会の提供、そして実際の臨床心理学的支援活動による地域貢献など、多くの課題に応えられる先端的な活動内容となっているものと自負しております。今後も、地域と大学とが相互に学び合い、より創造的な活動へと展開してゆけますよう、ご支援とご指導の程どうぞよろしくお願い致します。